

Dubianchunyi Qingai Wenxuelun

渡边淳一 情爱文学论

于桂玲

著



渡边淳一
hunyi Qingai Wenxuelun
情爱文学论

于桂玲



中国社会科学出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

渡边淳一情爱文学论/于桂玲著. —北京: 中国社会科学出版社, 2010. 9

ISBN 978-7-5004-9104-0

I. ①渡… II. ①于… III. ①渡边淳一一文学研究
IV. ①I313.065

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 179181 号

责任编辑 罗 莉
责任校对 刘 娟
技术编辑 李 建

出版发行	中国社会科学出版社	
社 址	北京鼓楼西大街甲 158 号	邮 编 100720
电 话	010-84029450 (邮购)	
网 址	http://www.csspw.cn	
经 销	新华书店	
印 刷	北京君升印刷有限公司	装 订 广增装订厂
版 次	2010 年 10 月第 1 版	印 次 2010 年 10 月第 1 次印刷
开 本	880×1230 1/32	
印 张	8.5	插 页 2
字 数	209 千字	
定 价	25.00 元	

凡购买中国社会科学出版社图书, 如有质量问题请与本社发行部联系调换
版权所有 侵权必究

本书为黑龙江省社科基金项目（05B071）的最终成果。
在研究中受其资助，谨致诚挚谢意！

寄语于桂玲的 《渡边淳一情爱文学论》

与本书作者于桂玲女士第一次见面，是2004年4月的事。当时她作为中国政府派遣研究员，在东京大学综合文化研究科要渡过一年的时光。她是在其指导教师、吉林大学中文系靳丛林教授的介绍下来访问我的。我记得她对日本近代文学中的樋口一叶、谷崎润一郎、川端康成等作家有兴趣，不过很犹豫该把研究重点集中在何处。于是，我建议她尝试选择在中国被广泛接受却尚未被深入研究的日本作家。

两年后，于女士和我商量：她的《渡边淳一研究》获得黑龙江省社科基金资助，这次有意申请东京大学文学部外国人研究员。我一直认为渡边淳一虽然在中国是最有名的当代日本作家之一，不过渡边文学在中国的接受和变异的研究还很不到位。另一方面，渡边文学一直被认为是专为男性而作的娱乐文学，对一个外国的、年轻的、女性日本文学研究者来说，包含着比谷崎、川端等古典式课题更困难的因素。再有，可以想象，在日本，即便是当代文学研究者中，对“渡边淳一研究”抱有偏见的也不乏其人。本来中日两国对渡边淳一文学的评价就相差悬殊。即使如此，不，正因为如此，于桂玲的研究对中日比较文学研究来说，应该是划时代的。就是抱着这种期待，

2 渡边淳一情爱文学论

我答应了做于女士的接收教授。

于女士不仅对当代日本文学兴趣广泛，而且实证研究能力很强。在于女士就任东京大学文学部外国人研究员期间，我邀请她参加了东京大学中文系国际共同研究项目《20世纪东亚文学史上的村上春树研究》。其后，东京大学中文系就这项研究于2007年10月召开了内部研讨会、2008年11月召开了国际研讨会；2009年6月又出版了大部头论文集《东亚阅读的村上春树》，出版社是以出版村上春树学术研究著作而闻名的若草书房。该书刊载了于女士的辛劳之作《汉语版〈舞舞舞〉的版本研究》，在文章中，于女士对比研究了1991年前半年短短半年的时间里出现的、林少华等中国译者翻译的《舞舞舞》的三种版本，阐明了中国村上文学接受和变异的一端。于女士的这篇论文是从一个崭新的视角研究村上，即使在日本，也受到了很高的评价。

正如于女士在本书绪论中所介绍的：中国对渡边文学的研究有四分之一世纪的历史，尤其是1998年《失乐园》现象以来，渡边的主要作品都被翻译成中文，关于渡边文学的多篇论文被学术杂志刊载，到2007年末为止，已有相关硕士论文四篇。在这些渡边文学研究者当中，曾有人把渡边淳一与诺贝尔文学得主大江健三郎，以及《挪威的森林》、《1Q84》的作者村上春树相提并论，把他们并称为代表当代日本文学的三大家。

在日本，大江、村上作为所谓的“纯文学”的代表作家，是任何人都承认的，同时，村上春树和渡边淳一又都是畅销书作家。不过，在日本的读书界，类似把大江、村上、渡边相提并论的现象，恕我寡闻，还没有听说过。因为渡边归根结底是所谓的“大众文学”作家。那么“纯文学”与“大众文学”的

差别究竟是什么——这可以从读书市场上的生产、流通、消费、再生产的模式来说明。

举个例子来说，在日本，关于村上春树的评论、研究等方面的专著超过100本，查一下日本国立国会图书馆的《杂志记事索引》，截止到2010年7月可以检索到679项，其中几乎都是文艺批评或者学术论文。与此相对，关于渡边淳一的研究或评论方面的专著只停留在一位数，检索《杂志记事索引》可以得到178项，那也多是渡边的对谈或者对他的采访。日本读书市场的村上文学与渡边文学，在生产（执笔）之后的流通（刊载作品的媒体、书店等的展场、书架等）、消费（读者层）、再生产（书评、学校的读后感作文比赛、国语教科书收录、评论与研究的书籍等）上相差悬殊。村上文学被同一读者连续阅读，属高层次消费，有非常强大的再生产能力，在中国、美国等外国读书市场上，还产生了被称作“村上孩子”的下一代作家。与此相对，渡边文学一般是读后即被随手丢掉，虽然被改编成电影、电视剧的作品很多，但读书市场的再生产能力薄弱，也不会有“渡边孩子”出现。这可以说是说前者为所谓的“纯文学”，后者为“大众文学”的典型实例。

日本有被称为“四大文艺志”的文学杂志（它们是新潮社的《新潮》，讲谈社的《群像》、文艺春秋的《文学界》、集英社的《subaru》）。每个月的上旬，《朝日新闻》朝刊第二版下半部占三分之一的版面都会并排刊登四大杂志的广告，而且四种杂志从右至左的排列顺序会每月依次向下错一位。顺便说一下，《朝日新闻》朝刊每天发行800万份，是日本的中产阶级消费最多的报纸，所刊登的有关书籍、杂志的广告数量也是各大报纸中最多的。这四大文艺杂志的广告每月都会刊载大江、村上本人的作品或是有关二人的评论或研究，但是渡边淳一的

4 渡边淳一情爱文学论

名字几乎从未登场过。这是因为虽然大江、村上和渡边同处日本读书市场，但却分别属于不同的世界。另外，关于从生产到再生产的模式，请参照拙著《鲁迅〈故乡〉阅读史》（董炳月译，北京新世界出版社，2002）。

在中国，有的学者把渡边的代表作《失乐园》评价为“教训小说”、“道德说教小说”，而在日本一般把它看作是围绕婚外情的娱乐小说。当然，由于在日本关于该作品的文艺评论本身就几近于无，所以从实际上得不到确切的佐证。

2007年5月，在东京大学文学部上野千鹤子教授主持的“东大性差讨论会”上，于女士作了《渡边淳一在中国的接受》的报告。提起上野女士，她是世界女性主义研究第一人，她的著述之多与她的身高相等。在这些著作中，被翻译成中文的有《父权体制与资本主义》、《裙子底下的剧场》等。顺带一句，上野女士她们把“东大性差讨论会”略称为“东大性会”。

于女士的报告引起了以上野女士为首的“东大性会”成员的极大震惊，她们向于女士提出了很多问题。这些成员多是女性，我印象很深的是，在提问题的时候，她们几乎都首先声明“我没读过什么渡边淳一……”。而我本人阅读渡边文学是在中国引起“失乐园热”以后的事，因为要回答中国的作家或文学研究者的提问“您怎么看《失乐园》？”我是在飞往中国客机的机舱内，捧着被书皮儿包得严严实实的袖珍本一口气读完的。

还要提一句，通过东京大学本乡·驹场两校区的东大生协书籍部的主页，检索渡边文学的库存情况，可以看到《爱的流放地》等8部作品虽然卖得很好，但与140部的村上春树、52部的大江健三郎相比，少得可怜。渡边淳一2004年在上海名校复旦大学作了题为《我的恋爱，我的文学》的讲演，他没有在东京大学作过讲演，恐怕今后也不会有。

如上所述，中国所阅读的渡边文学与日本有很大差异。中国人的阅读方式是“误读”吗？不，这不是“误读”，而是不能视而不见的、重要的“变异”。这就像美国的村上春树阅读呈现“羊高森低”（对《寻羊冒险记》的评价高，对《挪威的森林》兴趣淡漠）的特色，日本的村上阅读与之完全相反，呈现“森高羊低”状况一样。日美两国截然相反的村上阅读，反映了日美两国各自的文化和历史，同时也显示了村上文学的多样性。同理，中日两国截然相反的渡边阅读，反映了双方各自的文化和历史，同时也是渡边文学多样性的标志。关于“森高羊低法则”，请参照拙著《村上春树心底的中国》（张明敏译，台北时报出版社，2008）。

本书从女性主义的视点冷静、详尽地分析了渡边文学，阐明了处于日本“大众文学”读书界中的渡边文学生产、流通、消费、再生产的历史。迄今为止，日本的读书界“读后即弃”地消费了渡边文学，把它排除在批评、研究的对象之外。它们今后应该多向于桂玲女士的研究学习，因此我期待本书的日文版早日发行。

另外，于女士搜集了大量的中国对渡边文学接受的资料，在本书的绪论部分，利用其中一部分资料统括了其在中国的变异。我希望于女士能在不远的将来，以“中国的渡边淳一接受与变异”为题，做成本书的姊妹篇。

我衷心地期待于桂玲女士能够通过中日两国共同的“大众文学”渡边淳一，来探索中日两国文化的共性和差异性，并预祝这一宏大的比较文学研究成功！

2010年7月28日

藤井省三

于桂玲

『渡辺淳一情愛文学論』に寄せて

本書の著者于桂玲さんに私が最初にお会いしたのは、二〇〇四年四月のことだった。当時の彼女は中国政府派遣研究員として東京大学大学院総合文化研究科で一年間を過ごしており、吉林大学中文系における指導教授靳叢林氏のご紹介で私を訪ねてきたのだ。樋口一葉、谷崎潤一郎・川端康成などの日本の近代文学に関心があるものの、研究対象を何に絞るべきか、迷っているご様子だった。そこで私は、中国で広く受容されながらまだ研究が進んでいない日本作家を選んでみてはいかがでしょうか、と勧めた記憶がある。

それから二年後、于さんは「渡辺淳一研究」が黒龍江省社会科学基金プロジェクトに採用されたので、今度は東大文学部外国人研究員を申請したい、と相談をお寄せ下さった。渡辺淳一は中国で最も有名な現代日本作家の一人であるにもかかわらず、その中国における受容と変容に関する研究が乏しいことを、私は予てから残念に思っていた。そのいっぽう、渡辺作品は従来男性読者のためのエンターテインメント文学と考えられており、外国の若い女性日本文学研究者にとっては、谷崎・川端ら古典的テーマと比べて難しい要素を含んで

いること、日本では現代文学研究者の中にも「渡辺淳一研究」に対し偏見を抱く人も有りうることなどの困難も容易に予想できた。そもそも日中両国における渡辺文学の評価が大きく異なっているのだ。それでも、いや、それだからこそ、于さんの研究は日中比較文学研究にとって画期的なものになるだろう、という期待も大きく、私は于さんの世話教授役をお引き受けしたのである。

于さんは現代日本文学に幅広い関心を抱いているだけでなく、実証研究の能力も高い。于さんの東大文学部外国人研究員時代に、私は東大中文国際共同研究「20世紀東アジア文学史における村上春樹の研究」への参加をお誘いした。その後、東大中文はこの共同研究のため2007年10月にワークショップを、2008年11月にシンポジウムを開催したのち、昨年六月には大部の論文集「東アジアが読む村上春樹」を刊行した。版元は村上春樹研究書シリーズで有名な若草書房である。同書に于さんは労作「中国版『ダンス・ダンス・ダンス』の版本研究」を寄稿し、1991年前半の僅か半年間に刊行された林少華ら中国人三名による三種類の「ダンス・ダンス・ダンス」中国語訳を比較検討して、中国における村上文学の受容と変容の一端を解明して下さった。この于さんの新しい視点からの村上研究は、日本でも高く評価されている。

さて于さんが本書序論で紹介しているように、中国における渡辺文学受容は四半世紀を越す歴史を有しており、特に1998年の「失樂園」現象以来、渡辺の主要作はすべて中国語訳され、渡辺文学に関する多数の論文が学術誌に掲載され、2007年末現在で修士論文が四本も書かれている。このような渡辺文学研究者の中には、渡辺淳一をノーベル賞作家

8 渡辺淳一情愛文学論

の大江健三郎および『ノルウェイの森』『1Q84』の村上春樹と並べて現代日本の三大作家と称することもある、ともいう。

日本では大江・村上はいわゆる「純文学」の代表的作家として誰しもが認めており、村上春樹と渡辺淳一は共にベストセラー作家ではある。しかし日本の読書界で大江・村上・渡辺を一緒にして議論する、ということは寡聞にして耳にしたことがない。渡辺はあくまでもいわゆる「大衆文学」作家なのである。そもそも「純文学」と「大衆文学」との差とは何か—それは読書市場における生産・流通・消費・再生産の構造から説明することも可能であろう。

たとえば日本における村上春樹に関する評論書・研究書は優に100冊を超え、日本国立国会図書館の「雑誌記事索引」を引くと、2010年7月現在で679件を検索でき、そのほとんどが文芸批評か研究論文である。これに対し渡辺淳一に関する評論書・研究書は一桁に留まり、「雑誌記事索引」で検索できるのは178件、それもほとんどが渡辺の対談や彼に対するインタビューである。日本読書市場における村上文学と渡辺文学は、生産（執筆）後にたどる流通（作品掲載メディアや書店の展示先書棚など）・消費（読者層など）・再生産（書評、学校感想文コンクール、国語教科書収録、評論・研究書など）において大きく異なっているのだ。村上文学が同一読者による継続的読書など上質に消費され、非常に強力な再生産力を持ち、中国・アメリカなど外国読書市場でも村上チルドレンと称される次世代作家らを生み出しているのに対し、渡辺文学は読み捨てられる傾向が強く、映画化・ドラマ化を別として読書市場における再生産力は弱く、「渡辺淳

「一 CHILDREN」も有り得ない。前者はいわゆる「純文学」の、後者は「大衆文学」の典型的な例といえよう。

日本には四大文芸誌と称される文学雑誌があり（新潮社の「新潮」、講談社の「群像」、文芸春秋の「文學界」、集英社の「すばる」）、毎月上旬「朝日新聞」朝刊第二面下段に、紙面の三分の一を占める四誌横並びの大広告が掲載される。しかも四誌が右から左に並ぶ順番は、毎月順次繰り下がっている。ちなみに「朝日新聞」朝刊は毎日 800 万部を発行し、日本の中産階級において最も消費されている新聞であり、書籍・雑誌の広告量も新聞各紙の中で最も多い。この四大文芸誌の広告に、大江・村上本人の作品あるいは二人に関する批評や研究は毎月のように登場するが、渡辺淳一の名前が登場することはほとんどない。大江・村上と渡辺とは同じ日本読書市場にあっても、それぞれ別世界に属しているのだ。なお生産から再生産までの構造については拙著『魯迅・故郷・閲読史』（董炳月訳、北京・新世界出版社、2002）を参照していただきたい。

渡辺の代表作「失樂園」を中国では“教訓小説”“道德説教小説”と評価する研究者もいるが、日本では不倫をめぐるエンターテインメント小説と読まれていると推定される。もっとも日本には同書に関する文芸批評そのものがほとんど存在しないため、確証が得られないのが現状である。

2007 年 5 月、東大文学部で上野千鶴子教授が主宰する「東大ジェンダーコロキウム」で、于さんは「中国における渡辺淳一の受容」という報告を行っている。上野さんといえば世界のフェミニズム研究の第一人者であり、その等身の著書のうち、「父権体制與資本主義」「裙子底下的劇場」などが

中国語にも翻訳されてきた。ちなみに上野さんたちは「東大ジェンダーコロキウム」を「東大ジェンコロ」と略称している。

于さんの報告に、上野さんはじめ東大ジェンコロのメンバーはたいそう驚き、多数の質問を于さんに浴びせたものだが、参加者の多くが女性で、質問者に際して「私は渡辺淳一って読んだことないんですが……と前置きしていたのも印象的だった。私自身、渡辺文学を読んだのは中国での「失樂園ブーム」以後のことであり、中国人の作家や文学研究者からの「『失樂園』をどう思うか」という問いかけに答えるために、中国行きの機内にしっかりカバーをかけた文庫本を持ち込み、一気に読み上げたのである。

ちなみに東大の本郷・駒場両キャンパスにある東大生協書籍部ホームページで渡辺文学の在庫状況を検索すると、「愛の流刑地」など8件がヒットするだけで、村上春樹の140件、大江健三郎の52件と比べて圧倒的に小数である。渡辺淳一は二〇〇四年に上海の名門校復旦大学で「我が恋愛、我が文学」という講演を行っているが、彼が東大で講演を行ったことはなく、おそらく今後もないであろう。

このように中国における渡辺文学の読書は日本とは大きく異なっており、このような中国人の読み方は「誤読」なのだろうか。いや、それは「誤読」ではなく、また「誤読」として見過ごしてはならない重要な「変容」なのである。たとえばアメリカにおける村上春樹受容には「羊高森低」（『羊をめぐる冒険』の評価が高く、『ノルウェイの森』への関心が薄い）という特色があり、「森高羊低」の日本とは全く逆の状況になっている。日米におけるほぼ正反対の村上読書は、

日米両国のそれぞれの文化と歴史を反映したものであり、また村上文学の多様性を指し示すものでもある。これと同様に日中両国におけるほぼ正反対の渡辺読書は、双方それぞれの文化と歴史を反映したものであり、また渡辺文学の多様性の指標でもあるのだ。「森高羊低の法則」に関しては、拙著『村上春樹心底的中国』（張明敏訳、台北・時報出版、2008）を参照していただきたい。

本書は渡辺文学をフェミニズムの視点から冷静かつ詳細に分析し、日本の「大衆文学」読書界における渡辺文学の生産・流通・消費・再生産の歴史を解明している。日本の読書界はこれまで渡辺文学を読み捨て風に消費するだけで、批評・研究の対象から外してきた。今後は大いに于桂玲さんの研究に学ぶべきであり、そのためにも本書日本語版の刊行を期待したい。

また于さんは中国における渡辺文学受容に関する膨大な資料を収集しており、その一部を用いて本書序論で中国における変容を概観している。于さんには近い将来、中国における渡辺淳一の受容と変容をテーマに本書姉妹編を執筆して頂きたい。

日中両国文化の共通性と差異性を、両国共通の「大衆文学」である渡辺淳一を通じて探索するという于桂玲さんの雄大な比較文学研究の完成を、私は心から待ち侘びているのである。

目 录

寄语于桂玲《渡边淳一情爱文学论》…………… 藤井省三(1)

绪论…………… (1)

一 问题的缘起…………… (2)

二 渡边淳一文学研究的历史和现状…………… (6)

三 本书的基本思路和研究方法…………… (13)

第一章 情爱与社会变迁…………… (15)

第一节 不伦意识的演变…………… (16)

一 昭和以前…………… (16)

二 昭和之后…………… (19)

三 渡边淳一的初期“不伦”文学…………… (23)

第二节 经济增长与妇女地位…………… (27)

一 六七十年代的经济增长…………… (27)

二 日本第二次女权主义运动…………… (30)

三 渡边淳一文学中的女权主义者…………… (33)

第三节 现代社会与“假面夫妻”…………… (43)

一 20世纪80年代以来的家庭…………… (44)

二 渡边淳一作品中的“假面夫妻”…………… (46)

2 渡边淳一情爱文学论

第四节 少子高龄化社会与老年人的情爱	(55)
一 少子高龄化社会	(55)
二 渡边淳一文学中老年人的情爱	(58)
小结	(64)
第二章 渡边淳一的情爱理念	(65)
第一节 情爱之对象——不伦之爱	(66)
一 婚外恋题材的选择	(66)
二 男性社会的需求	(68)
第二节 情爱之宗旨——性爱至上论	(70)
一 性的拯救	(71)
二 性的征服	(74)
第三节 情爱之宿命——虚无	(76)
一 虚幻的温情	(78)
二 无言的结局	(81)
三 虚无的根源	(83)
第四节 情爱之归宿——独身主义	(88)
一 婚姻是束缚	(88)
二 恋爱非同结婚	(90)
小结	(95)
第三章 情爱与生死	(97)
第一节 死亡保存情爱	(97)
一 难以忘怀的死	(98)
二 实现永生的死	(101)
三 弥补遗憾的死	(103)
第二节 死亡阻止情爱	(107)